



図12 フェフキダイ類の八重山漁協水揚量 月別変化 昭和56年9月～昭和58年3月

○—○ フェフキダイ類(6種の計) △…△ ハマフエフキ ●—● イソフエフキ

## 要 約

### 1 種苗生産

マガキ幼生, カキ sp 幼生, 選別ワムシ, S型ワムシをそれぞれ組合せ, 初期飼育中における初期餌料について飼育試験を実施した。各試験区とも大量減耗は, 日令4~8に生じ, 全試験区の半数にあたる12試験区では飼育を中止し, 飼育を継続した試験区でも1.6%以下の低い歩留りであった。餌料種類別飼育試験を実施した中ではマガキ幼生+選別ワムシ区が若干良い結果を示したため, マガキ幼生を主体とした給餌飼育方法を検討する必要がある。

### 2 中間育成

- (1) 当支場で種苗生産した全長18.7~25.0mmの種苗11,652尾を用いて, 昭和59年6月4日から11月14日まで海面小割網生簀4面で中間育成を実施した。その結果, 98.0~113.4mmの大型種苗5,180尾, 57.0mm小型種苗1,177尾を取り上げた。中間育成歩留りは48.1~73.5%であった。
- (2) 沖出後完全に餌付くまでのアルテミア投餌効果について比較試験を実施したが, 魚体が大きかったため, 顕著な差はでなかった。

### 3 放流と追跡

- (1) 昭和59年度の放流は川平湾に平均尾叉長104.7mm, 113.4mmの大型種2,295尾, 名蔵湾に平均尾叉長98.0mmの大型種苗2,584尾, 平均尾叉長57.0mmの小型種苗1,077尾の計3,661尾で総計5,956尾であった。